スペイン・ラテンアメリカ通信

第１３号

京都外国語大学外国語学部スペイン語学科編

本誌はスペイン語とスペイン語圏の文化･社会･歴史の専門家が、スペイン語を学ぶ高校生や大学生に向けて発信するアカデミック情報誌です。

スペイン圏の世界遺産　2021 年、スペインの首都マドリード市内の中心部が「プラド通りとブエン・レティーロ、芸術と科学の景観」として世界遺産に登録されました。A～D はその界隈にある名所です。それぞれの名称は①～④のどれですか？（答えは８頁）

① シベーレス宮殿（マドリード市庁舎）　② アルカラ門

③ レティーロ公園　④ プラド美術館



（A）



（B）



（C）



（D）

文豪ゆかりのマドリード市内
ラス・レトラス地区をめぐるツアー

ラス・レトラス（las letras）とはスペイン語で文学の世界という意味です。また、マドリードの中心にラス・レトラスという地区もあります。その近所にはスペインの偉大な作家たちが多く住んでいました。現在、たくさんの通りの名前が作家の名前になっています。では、スペインの代表的な作家たちの作品について学びながらラス・レトラス地区のツアーに出かけましょう。現在この地区は非常に高級な住宅街ですが、19 世紀まではそこに住んでいた作家たちはほとんどが貧しく、ボヘミアンな生活を送っていました。

西端に宿屋サン・セバスティアンとサン・セバスティアン教会があります。宿屋サン・セバスティアンでは、“tertulia”という文学者たちのカジュアルな集まりがあり、18 世紀に生きたニコラス・フェルナンデス・デ・モラティンという作家が参加していました。“tertulia”は演劇、闘牛、愛、詩についての話が中心でした。息子のレアンドロ・フェルナンデス・デ・モラティンは父親より有名な劇作家になりました。彼の代表的な作品は『娘たちの「はい」』でした。ストーリーでは 15 歳の少女が 60 歳の男性と結婚させられます。18世紀は啓蒙の時代、つまり理性の時代です。この劇で最終的に結婚は成立しません。少女はその 60 歳の男性の甥っ子で、金持ちでハンサムな若い男性と結婚します。つまり理性で結婚し合理的なハッピーエンドということです。手前のサン・セバスティアン教会では、19 世紀のスペインロマン主義の詩人であるグスタボ・アドルフォ・ベッケルが結婚しています。この近くにあるマトゥテ広場にある新聞社で働いていたベッケルの最も代表的な作品は『抒情詩集』と『伝説集』です。ベッケルの有名なロマンチックな詩の一つは次のようなものです。「今日大地と空が僕に微笑む、/今日僕の魂の底に太陽が届く、/今日彼女を見た…彼女を見た、そして彼女は僕をじっと見つめてくれた、/今日僕は神を信じよう！」。

次に、サンタ・アナ広場に進みましょう。ここには二つの非常に有名な作家たちの銅像があります。一つはペドロ・カルデロン・デ・ラ・バルカで、代表的な『人の世は夢』や『名誉の医師』という演劇作品を書いたことで知られています。一つ目は自由と運命についてです。 2 作目のテーマは名誉と嫉妬です。カルデロン・デ・ラ・バルカは知的な作家であり、1681 年に亡くなった時に、黄金世紀という文学の時代も終わったと考えられています。この黄金時期は 1590 年頃に始まりました。

サンタ・アナ広場にあるもう一つの銅像は、20 世紀の作家であるフェデリーコ・ガルシーア・ロルカです（写真 1）。詩集『ジプシー歌集』や演劇『ベルナルダ・アルバの家』は非常に有名で、伝統的な歌とフラメンコに大きな影響を受けました。残念ながら、ロルカはスペイン内戦が始まった 1936 年にグラナダで暗殺されました。



写真 1：フェデリーコ・ガルシーア・ロルカの銅像

このサンタ・アナ広場には、現在「スペイン劇場」（Teatro Español）があります。ここは黄金時代に「王子の芝居小屋」（Corral del Príncipe）と呼ばれていました。あの時代の劇場で、劇は 6 時間から 8 時間続き、休憩時間には短編作品が上演されていました。セルバンテスは『ドン・キホーテ』を書く前に、こうした短編作品を多く書いていました。セルバンテスといえば、「セルバンテス」の名前がついた通りがこの界隈（かいわい）にあり、地面には『ドン・キホーテ』の出だしの一文が刻まれています（写真 2）。



写真 2：地面に刻まれた『ドン・キホーテ』の出だし

日本語訳での冒頭はこうです。「名前は思い出せないが、ラ・マンチャのある村に、そう遠くない昔、一人の郷士が住んでいた」。『ドン・キホーテ』は歴史上世界で二番目に多く読まれている本です（第一は聖書）。セルバンテスは貧しい家庭に生まれ、何度も盗みの罪で投獄されました。刑に服する代わりに、軍隊に入隊し、スペイン軍とトルコ軍の間のレパントの海戦で片手を失いました。驚くべきことに、セルバンテスが生きている間はあまり作家として成功しませんでした。特に戯曲家として。『ドン・キホーテ』を書いた後、100 年たってからようやくその作品が名作と認められました。セルバンテスは「トリニタリアス修道院」に埋葬されていますが、実は「トリニタリアス修道院」はセルバンテス通りではなくロペ・デ・ベガ通りにあります（写真 3）。皮肉なことに、ロペ・デ・ベガはセルバンテスの終生のライバルでした。



写真 3：ロペ・デ・ベガ通り

17 世紀のロペ・デ・ベガはスペインで最も有名な劇作家であり、『喜劇の作り方』という文学理論の本では、現代劇の構造（序章、展開、結末）を導入しました。最も有名な作品は『フエンテ・オベフーナ』で、これは村の人々が集まり、村の暴君を殺す話です。もう一つ文学者同士の歴史的な対立を紹介します。フランシスコ・デ・ケベードとルイス・デ・ゴンゴラとの対立です（写真 4）。



写真 4：ルイス・デ・ゴンゴラ(左)と
フランシスコ・デ・ケベード（右）

二人とも詩人でしたが、詩のスタイルは非常に異なっていました。ケベードは「コンセプティスモ」（＝奇知主義）というスタイルを作り出し、直接的でありつつも皮肉的な言葉遊びを好みました。有名な詩の一つに「お金様は強力な騎士です」や「昔々、鼻に釘付けになった男がいました」というものがあります。後者では、ゴンゴラの大きな鼻をからかっています。また、『ペてん師 ドン・パブロスの生涯』という非常に成功したピカレスク小説も書きました。一方、ゴンゴラは、非常に複雑で難解な詩を作り、メタファー（＝暗喩）やギリシャ神話を多く使用しました。ゴンゴラの作品『ポリュフェモスとガラテアの寓話』はその一例です。スタイルは「クルテラニスモ」（＝文飾主義）と呼ばれています。ゴンゴラは貧しく、スペイン南部のコルドバで亡くなりました。皮肉なことに、彼が亡くなってから 300 年後、20 世紀スペインの最も重要な詩人たち（ロルカを含む）はゴンゴラを大いに尊敬することになります。

さて、最後に皆さんに質問です。今日紹介した作家の中で、あなたはだれに関心を持ちましたか？

Daniel Arrieta（ダニエル・アリエタ／比較文学）

PARAGUAS
～男性？女性？単数？複数？～

¡Hola a todos! みなさん、こんにちは。スペイン語の学習はいかがでしょうか。

スペイン語の文法を習い始めた人の多くは、すべての名詞に男性・女性の区別があり、性別によって冠詞(un/una, el/la)や形容詞の語形を変えなければならないという文法規則に戸惑いを覚えるのではないでしょうか。覚え方の原則は、-o で終われば男性、-a で終われば女性ですが、別の文字で終わる名詞も山ほどあります。人物を表す名詞なら意味から瞬時に性別を判断できますが、-o/-a 以外で終わる事物を表す名詞の場合、逐一辞書などで性別を確かめる必要があり、最初のうちは労力を要します。たとえば、coche「車」は男性ですが、leche「ミルク」は女性です。単語の終わり方はどちらも-che で同じですが、性別は異なります。類似の例は、valle「谷」(男)と calle「通り」(女)、color「色」(男)と flor「花」(女)など多数があります。さらに厄介なのは、-o で終わる女性名詞や-a で終わる男性名詞があることです。たとえば、día「日」、mapa「地図」、problema「問題」は男性ですが、mano「手」、foto「写真」、moto「バイク」は女性です。男女両用名詞もあり、これは職業や身分を表す語に見られます。例として、estudiante「学生」、policía「警官」、periodista「新聞記者」などが挙げられ、冠詞によって、男女の意味を区別します。たとえば、un periodista といえば「男性の新聞記者」、una estudiante なら「女子学生」を指すことになります。

それでは本題に入りましょう。スペイン語に paraguas という単語があります。意味は「傘」です。さて、この名詞は男性でしょうか？女性でしょうか？さらには単数形と複数形のどちらでしょうか？語尾が-as なので、もしかしたら女性名詞の複数形のように思えてしまうかもしれません。ところが、この語は男性名詞です。しかも単数形と複数形が同じになる単複同形名詞です。もし「傘」が 1 本だけなら un paraguas といいますが、3 本あっても tres paraguas といい、語形は変化しません。もともと-s で終わっていて、最終の音節にアクセントがなければ必ず単複同形になります。他に、lunes「月曜日」、martes「火曜日」、oasis「オアシス」などがあります。

話を paraguas に戻します。この単語が男性名詞だと言われても、語尾が-as である以上、どこか違和感が残るのではないでしょうか。実はこの語が男性であることには理由があるのです。そこで paraguas という語の成り立ちを見てみましょう。この語は parar「止める」と agua(s)「水」の 2 語が合体したものです。つまり「水止め」が本来の意味です。日本語にも「鉛筆+削る→鉛筆削り」のように 2 語が合体してできた語がいくつも存在しますね。このような語のことを複合語といい、paraguas もその一例だったのです。そして、スペイン語の場合、複合語は元になる名詞が男性か女性かに関係なく男性名詞になるという傾向があり、しかも多くの場合、語末に-s を足して単複同形になります。そのため、agua「水」は女性名詞であるにもかかわらず、paraguas は男性名詞になったのです。同様の例は他にも多数存在します。さきほど挙げた「鉛筆削り」のことを sacapuntas といい、これは sacar「取り出す」と punta(s)「(鉛筆の)先」との複合語です。それではクイズです。次に挙げる 8 個の複合語の意味を推測してみてください。

1	lavar + plato(s) 洗う　皿	→ lavaplatos
2	parar + brisa(s) 止める　風	→ parabrisas
3	parar + caída(s) 止める　落下	→ paracaídas
4	cumplir + año(s) 満たす　年	→ cumpleaños
5	pasar + tiempo 過ごす　時間	→ pasatiempo
6	girar + sol 回る　太陽	→ girasol
7	salvar + vida(s) 救う　生命	→ salvavidas
8	trabar(se) + lengua(s) もつれる　舌	→ trabalenguas

意味は順に、1「食洗機」、2「フロントガラス」、3「パラシュート／落下傘」、4「誕生日」、5「娯楽／暇つぶし」、6「ひまわり」、7「救命具／浮き輪」、8「早口言葉」で、すべて男性名詞です。なお、5 と 6 は単複同形ではなく、複数形はそれぞれ pasatiempos と girasoles になるので注意してください。中には既成の複合語にさらなる別の語を合体させた二重の複合語もあります。たとえば limpiaparabrisas という語。分解すると、limpiar「磨く」と parabrisas「フロントガラス」になりますが、意味は何だと思いますか？

―答えは「ワイパー」でした。

岡本 信照(おかもと しんしょう／スペイン語史)

スペイン語の謎解き (6)
―月名の由来は？―

今回の謎解きは前回の曜日名の由来に引き続き、1 年間の月名を取り上げたいと思います。まずは 1 月から 12 月までのスペイン語を確認しておきましょう。それらは、enero, febrero, marzo, abril, mayo, junio, julio, agosto, septiembre, octubre, noviembre, diciembre ですね。曜日名と違って月名は英語とおおよそ似ています。理由は語源が同じだからです。ただし、スペイン語の頭文字は小文字なので注意してください。もっとも、各月に独特の名前がついているのは決して日本語も例外ではなく、旧暦では睦月(むつき)、如月(きさらぎ)、弥生(やよい)、卯月(うづき)…のように和風月名を用いていました。現在のように単に数字で月名を表すようになったのは明治時代以降のことです。

ところで、スペイン語(あるいは英語)の月名にも曜日名のような何か意味があるのでしょうか？やはり答えは“Sí”です。ところが、月名をめぐる事情は少々複雑です。曜日名と同様、月名も「6 月」までは古代の神話に登場する神々の名前が由来です。月ごとに特定の神に捧げ物をするのが習わしだったためです。「1 月」から「6 月」までのスペイン語名と語源となるラテン語を表 1 に掲げてみます。

	スペイン語	ラテン語	本来の意味
1 月	enero	Januarius	戸口の守護神 ヤーヌスの月
2 月	febrero	Februarius	贖罪の神 フェブルウスの月
3 月	marzo	Martius	軍神 マルスの月
4 月	abril	Aprilis	美の女神アプロディーテーの月
5 月	mayo	Maius	豊饒の女神 マイアの月
6 月	junio	Junius	結婚の女神 ユーノーの月

表 1：「1 月」～「6 月」までの由来

それでは、1 年の下半期はどうなのでしょう。その説明の前に、1 年を 12 カ月に分けるのが当然だという固定観念をまず捨ててください。起源は古代ローマ時代の最初期にさかのぼります。当時の暦では 1 年が 10 カ月しかなく、今の 3 月が 1 年の始まりでした。農耕作業ができない冬場にあたる最後の 2 カ月間には名称がつけられていなかったのです。これが「ロムルス歴」と呼ばれるローマ最初期の暦です。その名残が septiembre(9 月)から diciembre (12 月)の名称に見られます。少し話が本題から外れますが、スペイン語の序数を「第 1」から「第 10」まで言ってみてください。それらは順に、primero, segundo, tercero, cuarto, quinto, sexto, séptimo, octavo, noveno, décimo ですね。ここから最後の 4 語、séptimo(第 7)から décimo(第 10)までを「9 月」から「12 月」までの月名と照合してみてください。語形がそっくりなのにお気づきでしょう。語源的にみると、septiembre の本来の意味は「第 7 番目の月」であり、octavo は「第 8 番目の月」、noviembre は「第 9 番目の月」、そして diciembre は「第 10 番目の月」でした。3 月を年始だと考えると語形と意味が合致しますね。ちなみに、語源となるラテン語では「第 7 月」から「第 10 月」までを順に September［セプテンベル］、October［オクトベル］、

November[ノウェンベル]、December[デケンベル]といい、英語にはこのままの語形が入りました。スペイン語や英語には継承されなかったのですが、その前の 2 カ月も同じ要領で「第 5 月」は Quintilis[クインティリス]、「第 6 月」は Sextilis[セクスティリス]と命名されていました(たしかにスペイン語の序数 quinto, sexto と語形が似ていますね)。つまり、年間下半期の月名の由来はラテン語の序数だったというわけです。

1 年が 10 カ月から成り、冬季に空白期間があるという奇妙な状況は即座に改正されました。ヌマという二代目の王が空白期間を 2 カ月に分割し、それぞれ Januarius[ヤヌアリウス]と Februarius[フェブルアリウス]と名づけました。これを「ヌマ歴」といいます。ただし、新しく追加された月名は、当初「第 11 月」と「第 12 月」でした(スペイン語の enero はラテン語の Januarius が変化した結果です。ラテン語の語頭 J-が消えてしまったために、スペイン語と語形が大きく違って見えるのです)。ヌマ王からだいぶ時間を経た紀元前 153 年、年始が 2 カ月早められ、Januarius(つまり現在の enero)にあたる月が「1 月」、Februarius(つまり現在の febrero)にあたる月が「2 月」と定められました。以下、スペイン語 marzo の語源である Martius[マルティウス]以降の月が 2 カ月後ろにずれることになりました。

	ロムルス歴	ヌマ歴	BC153-46
第 1 月	Martius	Martius	Januarius
第 2 月	Aprilis	Aprilis	Februarius
第 3 月	Maius	Maius	Martius
第 4 月	Junius	Junius	Aprilis
第 5 月	Quintilis	Quintilis	Maius
第 6 月	Sextilis	Sextilis	Junius
第 7 月	September	September	Quintilis
第 8 月	October	October	Sextilis
第 9 月	November	November	September
第 10 月	December	December	October
第 11 月	-----	Januarius	November
第 12 月	-----	Februarius	December

表 2：初期古代ローマにおける月名の変遷

これでもうおわかりですね。紀元前 153 年の暦の改正こそが、septiembre から diciembre までの月名が語源に反して「9 月」から「12 月」を指すようになった理由です。

さて、1 年を 366 日とする閏年(うるうどし)を 4 年に 1 度設ける制度にしたのが世に名高いローマの政務官ユリウス・カエサル(英語読みはジュリアス・シーザー)です。この改良された暦を彼の名にちなんで「ユリウス暦」といい、紀元前 45 年から実施されました。彼の家名である「ユリウス」をラテン語では Julius とつづります。もうお気づきでしょうか。現在の「7 月」を指す julio(英語 July)の語源はこのユリウス・カエサルの名前だったのです。彼の誕生月が 7 月だったことから、ラテン語で Quintilis と呼ばれた月名がユリウス暦の導入にともなって Julius に変更されました。強大な権力を奮ったそのカエサルは、暦を改正した翌年に暗殺されてしまいます。その後を継いだのがオクタビアヌスでした。彼は、ローマが共和政から帝政になった際の初代皇帝になり、「尊厳者」を意味する「アウグストゥス」(Augustus)という称号が与えられました。この称号がカエサル誕生月の翌月を指す名称になり、スペイン語の agosto(英語 August)の語源となりました。

では、月名の由来をまとめてみましょう。「1 月」から「6 月」までは古代神話の神々の名前から、「7 月」と「8 月」は歴史上の実在の人物から、そして「9 月」から「12 月」まではラテン語の(2 カ月意味のずれた)序数詞からということになります。月名の語源を探ることで、暦の複雑な歴史がよく見えてきます。

岡本信照(おかもと しんしょう／スペイン語史)

スペイン語のことわざ

Llover sobre mojado.

湿ったものの上に雨が降る。

→泣きっ面に蜂

スペイン語のなぞなぞ

Soy alta y delgada. El sol y la luna me llevan, pero en el aire no me ves. ¿Quién soy?

(→答えは 7 頁)

スペイン語話者数の現在

この地球上には 7,100 種類以上の言語が存在すると言われています。ただし、言語数の数え方は難しく、互いによく似た言語同士を別言語として数えるか、同じ言語の方言と見なすかによって総数は大きく違ってきます。そのため、世界の言語数には諸説あるのが本当のところです。

仮に 7,100 という数値を信用し、それを世界の国数 196 で割ると、1 ヶ国につき平均 36 言語余りが話されている計算になります。もちろん中には 1 言語しかない国もありますが、驚くほど多くの言語が話されている国もまたいくつもあります。最も多くの言語数を擁する国はパプアニューギニアで、840 言語と言われています。次がインドネシアで 710 言語、以下ナイジェリアの 510 言語、インドの 450 言語と続きます。全世界に存在するこれほど多数の言語の中で、話者数が億を超えるのはわずか 12 言語です。一方、今や話者が高齢者だけになってしまったという消滅危機の言語数は膨大で、全体の 40%以上という説があります。

さて、今みなさんが学習中のスペイン語はどのような位置づけになるのでしょうか？世界の言語話者数の統計値については「エスノローグ」“Ethnologue”というウェブサイトで調べることができます。母語話者数と第二言語話者数を合わせた話者数の多い言語上位 6 は表 1 のようになっています（2025 年現在）。

1	英語	15 億人
2	中国語（北京官話）	12 億人
3	ヒンディー語（インド）	6 億 9 千万人
4	スペイン語	5 億 6 千万人
5	アラビア語	3 億 3 千万人
6	フランス語	3 億 1 千万人

表 1　Ethnologue 2025 に基づいて作成

スペイン語についてもう少し掘り下げてみましょう。「インスティトゥト・セルバンテス」（Instituto Cervantes）というスペイン政府の公的機関が、毎年世界のスペイン語状況について調査をしています。この機関が 2024 年 10 月に公表した統計によれば、スペイン語を第一言語としている母語話者は 5 億人に達し、運用力に制限があるものの、第二言語として話せる非母語話者が推定 7 千 2 百万人、スペイン語を学習している非母語話者の学生が 2 千 4 百万人とのことです。つまり、母語としてかどうかを問わずスペイン語を話せる人が現実には 6 億人近く存在することになり、世界人口を 82 億人とした場合、その 7.3%を占める計算になります。学習者数に関して言えば英語が世界最大ですが、ふだん英語で生活している母語話者数は 3 億 8 千万人から 4 億人というデータがあり、母語話者数ではスペイン語のほうが英語をはるかに上回っています。しかも、スペイン語話者数は右肩上がりで増加の一途にあります。これからも世界におけるスペイン語の動向が注目されます。

岡本信照（おかもと　しんしょう／スペイン語史）

【読書案内】『マリーナ　バルセロナの亡霊たち』



カルロス・ルイス・サフォン著、木村裕美訳、

集英社文庫、2024 年、全 314 頁

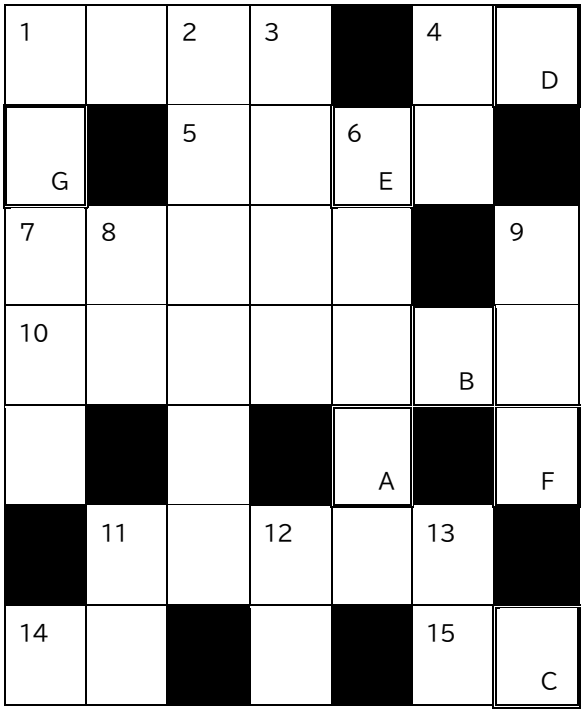
本書は、全世界にファンを持つルイス・サフォンの初期作品。舞台はバルセロナ。主人公は 15 歳の少年。彼はひょんなことから知り合った同世代の少女とともに、人知れぬ墓地を訪ねた。二人はそこである貴婦人を見かけ、好奇心からその後を追うことになる。ところが、その先にバルセロナの覗いてはならない秘密があった！最後に意外な結末が待ち受けている。

［6 頁なぞなぞの答え：La letra ℓ（L の文字）］

CRUCIGRAMA 13

1マスに大文字1字を記入してください。CH, LL, RR は2文字扱いです。アクセントつきの母音(Á, É, Í, Ó, Ú)とアクセントなしの母音は別の文字とします。二重線の A～G を並べ替えてできたスペイン語単語を当ててください(答えは次号)。

(出題／岡本信照)



タテのかぎ (VERTICAL)

1.「メガネ」。通常複数形で用いる。

2. ¡Buenas ____!「こんにちは！」

3.「アジア」。

4. ¡Cómo ____!「もちろん！」

6.「野原、田舎」のことだが、一定の目的で使用する平地を指す。____ de deportes といえば「運動競技場」のこと。

8. Vamos a hablar ____ español.「スペイン語で話そう。」

9. ____ es.「そのとおり」。

11. ¿De dónde ____ usted?「どこのご出身ですか？」

12. ¿Quieres una taza de ____?「紅茶一杯いかが？」

13. ____ es la hora.「もう時間だ。」

ヨコのかぎ (HORIZONTAL)

1.「雌のネコ」。

4. No hablo ____ alemán ____ francés.「私はドイツ語もフランス語も話せない。」

5. Me da ____.「吐き気がする。」

7.「定期市」や「祭り」のこと。有名な「セビーリャの春祭り」を ____ de Abril de Sevilla という。

10. ____ diez kilómetros.「私たちは 10km 歩く。」

11. Ahora ____ libre.「今私は暇だ。」

14. Yo ____ espero.「君たちを待っているよ。」

15. Vamos ____ cine.「映画館へ行こう。」

A～G を並べると?

A	B	C	D	E	F	G

CRUCIGRAMA 12 (第12号)の解答

Q	U	I	É	N	■	A
U	■	S	■	O	Í	R
E	L	L	A	S	■	M
■	L	A	S	■	V	A
P	A	S	A	D	A	■
E	N	■	D	■	S	E
Z	A	P	A	T	O	S

A～I の答え： PANADERÍA「パン屋」

—1頁のクイズの答え—

(A) ①　(B) ④　(C) ②　(D) ③

今回の記事執筆者(掲載順)

ダニエル・アリエタ(京都外国語大学准教授)

岡本信照(京都外国語大学教授)

スペイン・ラテンアメリカ通信　第１３号

2025年5月30日発行

発行者：京都外国語大学外国語学部スペイン語学科

〒615-8558　京都市右京区西院笠目町6

URL. https://www.kufs.ac.jp

E-mail. s_okamot@kufs.ac.jp

京都外国語大学
Kyoto University of Foreign Studies